

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ⑫ ～無関心な人をつくってはいけない～

部落問題学習に取り組む教師に求められていること

同和問題は人の生命に関わる問題である。それを「ひとごと」のように捉える愚かさについて、生徒は、論ずように語っていく。教室に溢れる先生方は、生徒たちのひとごとひとごとを聞き逃すまいと、メモを取り、自分の心に刻み込んでいく。その真剣なまなざしに力をもらうように、生徒たちの語り合いは深まっていく。仲間の語りを集約するようなM・Mの語りである。

M・Mの語り「同和問題学習は本当の生き方をつかんでいく学習」

すべての人が自分自身の問題として考えていかなければならない

その愚かな発言をした先生はたぶん、すべての人が自分自身の問題として考えていかなければならない、この学習の重要性を受け止めることができているんだと僕は思います。そして、同和問題が人の生命に関わるという差別の厳しい現実を知っていたら、そんな情けない言葉は絶対出てこないと思います。この問題は部落に生まれたとか生まれなかったということ抜きで、すべての人が自分自身の問題として考え解消に向けて取り組んでいかなければ、絶対解決していかない問題だと思っています。

人のことはとやかく言うけど、自分は差別の固まりという先生もいるんだなあと思う

人間は大人になると人間としてすばらしくなっていかなければならないのに、自分の差別意識は棚において、人のことをとやかく言う差別の固まりという先生もいる。だから、僕たちはそんな大人や先生の差別意識とかに気づいて、しっかりと訴えていかなければ、部落差別を始めとする差別は、その人の心からは消えないと思います。そのことは、僕の中にも差別意識があってこの学習をしっかりと続けていかなければ、その差別意識は年をますごとに段々と大きくなっていき、根強く残っていくと思うんです。だから、僕自身この学習を大切に続けていきたいと思っています。

同和問題に対して一番こわいのが無関心な人だと僕は思う

部落差別を残してきた大きな原因として、僕は、同和問題に無関心な人と、この学習を正しく学習してこなかったおじいさんやおばあさんなど、この教育を受けることがなかった人たちの二つに大きな原因があると思うんです。その中で意味で一番こわいのが無関心な人だと僕は思うんです。部落差別をなくすために生きる人生は、ものすごいよろこびがあるけれど苦勞も多いと思います。

すべての人が同和問題を生命に関わる問題だと自覚していかなければならない

無関心な人は真剣に考えることが少ないということだから、無関心な人のほとんどが、差別とたたかう側と差別する側に分けたら、差別する側に流されてしまうと思うんです。僕は部落差別に無関心な人を絶対につくってはいけないと思うんです。すべての人が同和問題を自分自身の生き方に関わり、人の生命に関わる大変な問題なんだと自覚していかなければならないと思います。

同和問題の学習は人間としての本当の生き方をつかんでいく学習だと思ふ

僕はこの学習は人間としての本当の生き方をつかんでいく学習だと思ふんです。僕はこの学習から自分に自信がもてるようになって、人前でしゃべるのも緊張感がなくなって、いつも思いきり自分の思いをぶつけていくことができるようになってきたと思います。絶対に負けないというものをつかむことができたと思います。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ共同代表 森口 健司